

2012(平成24)年度 法学既修者入学試験問題(2月試験)

商 法

(90分, 総点100点)

試験開始の指示があるまで開かないこと

注意

1. 問題冊子は, 表紙をふくめて4ページで, 問題は2問ある。
2. 解答用紙は1枚配布する。解答は解答用紙に記入し, 解答の末尾には, 「以上」と明記すること。また, 用紙が不足した場合には, 追加の用紙を配布するので, 挙手して監督者に知らせること。
3. 下書き用紙として, 白紙を1枚配布する。ただし, 下書き用紙の提出は認めないので, 必ず解答用紙に清書して提出すること。
4. 解答用紙への受験番号, 氏名記入は, 監督者の指示によること。また, 「管理番号」欄は, 大学側が使用するので受験生は記入しないこと。
5. 問題の内容に関する質問には, 応じない。
6. 試験時間内の退場はできない。なお, 試験中の発病等やむを得ない場合には, 挙手により監督者に知らせ, その指示に従うこと。
7. 試験終了後は, 監督者の指示があるまで, 各自の席で待機すること。
8. 問題冊子及び下書き用紙は, 各自で持ち帰ること。

第1問

株式会社である甲銀行（以下「甲銀行」という。）ニューヨーク支店の従業員Aは金融商品の取引の失敗により損失を発生した。甲銀行ニューヨーク支店ではAの業務をチェックする者が実質的に存在せず、Aは容易に帳簿の改ざん等ができる状態であったため、損失を隠すために5年にわたって帳簿を改ざんしながら、この損失を取り戻すために様々な取引を行ってきた。しかし、これらの取引はかえって損失を拡大させる結果となり、最終的に、甲銀行は、500億円の損害を被った。以上を前提に、下記の小問(1)および(2)に答えなさい。各小問は独立したものとする。

- (1) 甲銀行の株式を6か月以上継続保有している株主Bは、甲銀行が受けた損害について、甲銀行の取締役に対して、どのような手続きを通して、どのような請求ができるかを説明せよ。(25点)
- (2) 甲銀行の株式を6か月以上継続保有している株主Cが、甲銀行のために取締役の責任を追及する訴訟を提起した。ただし、Cの訴えの目的は、甲銀行の取締役が取締役としての義務に違反したかどうかを明らかにすることではなく、あるいは、甲銀行が受けた損害を回復することでもなく、甲銀行と交渉して金銭を支払わせることが、目的であり、甲銀行が交渉に応じて自分に金銭を支払えば訴えを取り下げの意図で訴えを提起したのである。このようなCの訴訟に対処するために、被告取締役はどのような方法を取り得るかを説明せよ。(25点)

第2問

取締役会設置会社である甲株式会社（以下「甲社」という。）の代表取締役Aは、甲社の資金繰りが悪化し、早急に資金が必要になったことから、甲社が保有する土地を売却することを計画した。この土地は、甲社の操業中の工場の敷地であり、土地の価値は甲社の総資産の4分の1を上回るものであった。以上を前提に、下記の小問(1)および(2)に答えなさい。各小問は、独立したものとする。

(1) Aが、取締役会の決議を経ないで、甲社を代表して、Bとの間に本件土地の売買契約を締結した場合、Bが、本件土地の引渡しおよび移転登記の請求ができるかどうかについて論じよ。(25点)

(2) Aが、取締役会の決議を経て、甲社を代表して本件土地をBに10億円で売却したが、売却後、本件土地の売却時における適正価格は15億円であることが判明した。甲社の取締役会は、土地の売却に際し、土地の価格に関して、取得時の価格が9億円であったことを調査した以外は一切の調査を行っていなかった。Bは、甲社がやっと見つけた買い手であり、Bは10億円以上の売買価格では契約に応じないという事情があった。以上の場合に、甲社は、Aを含む取締役にどのような責任を追及できるかを論じよ。

(25点)

余白